

かたりべ 83

豊島区立郷土資料館だより

JR大塚駅北口にいます。なじみのお客さんも売手になって。



おばさんとまず話をしてから始まる買物です。



持ってきたものは売りきります。岩井 静氏提供▶

「最初は泣いたよ。でも、今は顔見知りもできた。」

—都会とその近郊の農村をつないで—

「毎週木曜日と日曜日は休み。一二月も三一日まではここに出るよ。正月は一日から二〇日までは休むよ。昭和三五年頃は一番多くて、三〇〇〇人とか四〇〇〇人とかいたね。今は、高齢になってやめたとか亡くなった人もいるし、これから始めようとする人がいなから、やっているのは一〇〇人くらいかね」と、今の場所に出て約二〇年になる「かつぎやおばさん」は話してくれました。

千葉県下総地方の農家の女性が、自分の家の畑でとれた野菜等を大きな背負い籠かごに入れ、藍染めの大きな風呂敷で包み、もんぺ姿で前かがみになって担ぎます。今日では珍しいかもしれませんが、かつては都内各所でよく見られた光景でした。紹介する岩井静さんは印西市に住んでいます。成田線布佐駅で乗車し、朝七時には持ってきたものを並べます。一一時頃には引き上げ、自宅に帰って休憩し、夕方になると畑に出て、翌日売る野菜を袋詰めします。今は野菜の端境期ということでしたが、ナス・ウリ・シシトウ・ミョウガがありました。その他に、自家製の梅干しと漬物も。餅・赤飯・饅頭は、このような行商の人向けに作る製造業者から、当日の早朝に購入して持ってくるということです。

常連のお客さんから前日に頼まれたものが、店先とは別に置かれてありました。「頼まれたもの持ってきたよ」、「ありがと。このお煎餅食べてよ」、「あら、いつも悪いね」、「このウリ、ひとつ持って行ってよ」。互いに名前は知らなくとも話ははずみます。

お子さんが二歳のときからはじめ、今は七四歳。五〇、六〇kgの荷を担ぐ姿に生きるたくましさを感じ、また、きつい仕事から楽しみを見出すことができることも知らされたひとときでした。(福岡)

※取材にあたり倉林昭子氏、佐藤次子氏のご協力をいただきました。

【事業報告】第二回企画展「歩く・聞く・写す」を終えて

この展示は、七月二〇日（木）から九月一〇日（日）まで開催しました。盛夏の時期、ご来館いただきほんとうにありがとうございました。秋、外歩きをした

がとうございました。秋、外歩きをした気分になったとき、この展示を思い出して、そのコース作りの参考にさせていただければと思っています。

では、簡単に、展示構成をふりかえっておきましょう。

- * * *
- 1歩く
 - ・江戸を散歩―坂から坂へ―
 - ・浮世絵に描かれた名所
 - ・写されてきた古刹
 - ・キャンパスは歴史の宝庫
 - ・雑司ヶ谷霊園の緑
- 2聞く
 - ・産婆さんと大入道
 - ・きつねの嫁入り
 - ・丸池の234年
 - ・七曲りの道
 - ・大根と水のくらし
- 3写す
 - ・わたしの思いで
- * * *

当館が事業としておこなってきた地域史講座や、ふだん区民の方のお宅に行っ

てお聞きしたむかしの話や見せていただいた写真、それらのごく一部ではありませんが、まとめておきたいという気持ちから企画しました。



1では、むかしと今の地図を比較し、土地の起伏が以外に多い区域の特徴をつかんでみました。また、浮世絵の材料として描かれた場所が、栗鴨・駒込の植木屋の集住地域と、雑司が谷、鬼子母神が多いことがわかりました。展示した浮世

絵16点はすべて実物で館蔵資料なのですが、きれいなためにカラーコピーとか複製に見間違われた方もいらしたようです。

ところで、区内で有名な古刹に、法明寺・鬼子母神があります。大正二年から四年に写された写真を提供してくださった方がおられましたので、大きく引き伸ばして写真パネルにして展示しました。同所は、空襲で仁王門をはじめ多くの建造物を焼失していましたので、戦前の同所周辺を知るある方は、「この仁王門の前はこわくていつも下を向いて通っていました」と話して行かれました。

区内には複数の大学がありますが、そのひとつである学習院の目白キャンパスは、実は歴史の宝庫なのです。同院が四谷から現在地に引越してくる以前、同所には高田村の農家が14軒あったといわれています。また、キャンパス内には3基の道しるべが現存しており、人々の往来があったことを知ることができます。それらには、ぞうしがや、ほりのうち・やくしといった文字が刻まれています。

区内各所の土地の来歴を調べると、意外なことがわかるものです。その例としてあげられるのは雑司ヶ谷霊園です。同所は、一般には、幕府の御鷹部屋のあった場所として知られていますが、それは

霊園の一部分で、大部分には江戸時代か

ら続く農家があり、また、その人たちの農地があった場所だったので。このことは、明治期の地図や当時の農家の屋敷林の存在や言い伝えからも納得できます。かつては、日常的に聞かされていたという話も紹介しました。「昔話や民話はありませんか」という質問をよく受けましたが、御存じの方に会えば、教えていただけます。みなさんも、ちよつとした世間話のときに聞き、メモをしてみてもいいかがでしょうか。

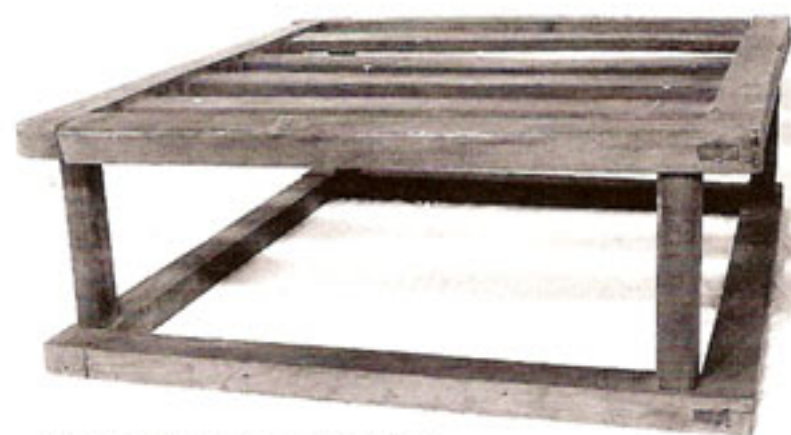


ゆつくりした時間がないといわないで、たまには古いアルバムを開いてみてはいかがでしょう。くらしのひとつまが、ま

豊島区と長野県を結ぶ こたつのやぐら 盆・黑板・飯台

博物館同士で資料の貸し借りをすること

とがあります。いろいろな場合がありますが、一番多いのは特別展・企画展などのテーマに必要な資料を、他の博物館所蔵のもので補強するケースです。その館の所蔵資料だけでは、テーマに対して十分でない場合、あるいはその館の地元資料と比較・対照するために隣接区など他の地域資料館からの資料借用が必要になる場合などです。



満泉寺のこたつのやぐら

また、博物館・資料館には特定の専門的な分野をテーマとした施設があり、ます。そうした館から資料をお借りすることにより、よくあります。例えば、

一昨年開催した当館の企画展「えきぶくろー池袋駅の誕生と街の形成」は豊島

区での鉄道の発展をテーマとしたものですが、その際には鉄道についての専門的な施設である交通博物館から関連する資料をお借りしました。

こうした資料の貸し借りを効果的に行なうには、隣接地域博物館をはじめ、全国にわたって各博物館・資料館がどのような資料を所蔵されているか、十分な情報を持っていないわけではありません。そのためには、他館の展示見学や図録・資料目録など刊行物の収集はもちろんのこと、職員同士の交流など日常的なつながりも大切です。

ところで、この夏、当館から長野県立歴史館（長野県千曲市）に数点の資料をお貸ししました。これは同館の企画展「戦時下の子どもたち―信州の十五年戦争―」に出品するためです。なぜ、豊島区の資料が長野県で展示されるのでしょうか。戦時下・子ども・長野県・豊島区、これらを結びつけるもの、それは集団学



旅館丸本の盆



観音寺の黑板

童疎開です。長野県は豊島区の集団疎開先の一つで、一万人近い小学生（当時は国民学校生）が親元を離れて参加しています。

当館の貸出し品の中には、元々長野県で収集した資料がふくまれています。坂城町満泉寺旧蔵の「こたつのやぐら」、山ノ内町（当時は平穏村）の旅館丸本旧蔵の「盆」、筑北村（当時は本城村）観音寺旧蔵の「黑板」、上田市（当時は西塩田村）前山寺旧蔵の「飯台」の四点です。いずれも、疎開学童の宿舎（学寮）となっていた寺院や旅館で、豊島区の子どもたちが使っていたものです。

実は、この四点は今から二〇年近く前に当館で学童疎開先での調査をした時に、ご寄贈いただいた資料の一部です。学童疎開に結ばれて、やぐら・盆・黑板・飯

台は長野県と豊島区を往復して廻ることになりました。一緒に貸し出した資料のうち、疎開学童だった方がお持ちだったもの（学用品入れ・手描きの漫画帳）は久しぶりの長野行きということになりました。

長野県立歴史館の展示「戦時下の子どもたち―信州の十五年戦争」は九月三〇日―十一月二日（休館日は月曜日と一〇月一〇日）開催。詳しくは同館（電話〇二六（二七四）二〇〇〇）まで。また、豊島区

区の集団学童疎開については当館の関連する図録や調査報告書などをご参照下さい。（あ・お・き）



前山寺の長〜い飯台（屋上で撮影しました。）

鉄道関係史料Ⅰ——日本鉄道編——が刊行されました

九月一日に、豊島区立郷土資料館調査報告書第十八集『鉄道関係史料Ⅰ——日本鉄道編——』が刊行されました。

この報告書は、東京都公文書館や交通博物館に所蔵されている、鉄道関係の公文書の中から、現在のJR山手線・埼京線の路線に当たる、日本鉄道株式会社が建設した「品川川口間鉄道」と「日本鉄道豊島線」に関する、四七件の史料を翻刻したものです。

第一章は、日本鉄道品川—川口間鉄道の建設に関する史料であり、目白駅の設置を求める地元の人々の嘆願書をはじめ、工事自体に関係する史料を収録しました。第二章では、品川—川口間鉄道建設のための鉄道用地収用に関する史料を集めました。

第三章は、品川—川口間鉄道と田端を結ぶ「日本鉄道豊島線」、後の山手線がどのような経緯で建設されたのか、それを知る手がかりとなる史料が収録されており、本書刊行に当たったの目玉の一つとなっています。

そして、第四章が、山手線建設にあつ

つての土地収用関係の史料となっており、日本鉄道による土地買収に関する不服申立や訴訟に関する史料を収録しました。また、巻末には豊島区における鉄道関係年表も収録しました。

さて、本書に収録した史料を利用して、豊島区域への鉄道建設の経緯の一部を明らかにすることができます。たとえば、「かたりべ75」（二〇〇四年九月刊）で紹介した、田端—池袋間のルート変更の経緯に関して、現在確認されている資料の全部を収録しています。

しかし、実は鉄道関係の史料から判ることは、鉄道建設に関わることだけではないのです。鉄道を建設するにあたって鉄道会社は管轄する役所に対して「起業目論見書」というものを提出しなければなりません。この「起業目論見書」には、鉄道建設の目的や、鉄道を建設した場合に、どのような収入の見込みがあるのかなどの建設計画が記されています。ですから、鉄道を敷こうとする会社が、その地域をどのように認識していたか、ということを知

る手がかりにもなるのです。

また、鉄道会社が鉄道建設のために土地を買い上げる場合、誰のどのような土地（宅地・畑など）をいくらかで買い上げるのか、ということが調査されます。それらを書き上げた史料も今回収録しました。

これらの史料からは、当時、鉄道が鉄道が建設される沿線地域では、どのように土地が利用されていたかを知ることができます。栗鴨地域の土地収用に関する史料では、植木屋の土地が建設用地に含まれることもあり、その場合には、その土地で栽培されていた樹木の品種なども書き上げてあり、明治期の植木屋の一端をかいま見ることができます。その他、土地収用の不服申し立てや訴訟に関する史料からは、土地買収をした鉄道会社と土地所有者との交渉過程や、当時の土地売買の実態に迫ることもできます。

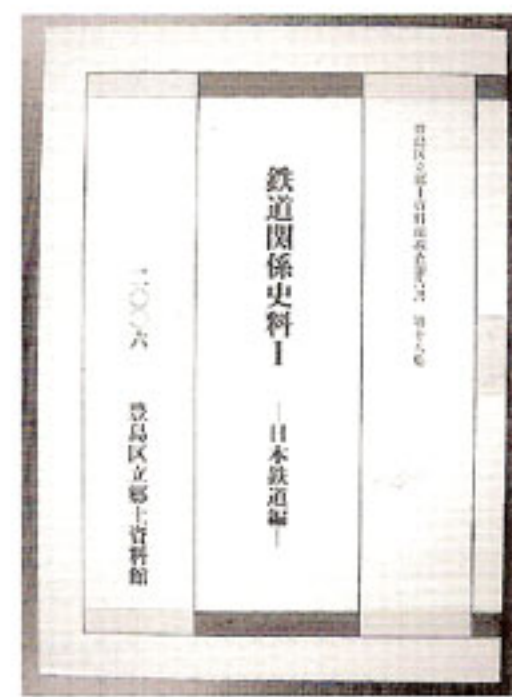
ほかには、鉄道建設によって分断された道路の付け替えについての史料もあります。それらの史料からは、現在も残る沿線の道路（たとえば、目白—池袋間の線路の西側に沿った「F・L・ライトの

小路」）がどのような経緯で出来たのかということを知ることができます。

このように、鉄道関係史料は、建設された鉄道そのものについてだけでなく、建設された地域像の歴史的な解明にも利用することができるのです。

さて、今回の調査報告書の題名は「鉄道史料Ⅰ」となっています。ということからは「Ⅱ」や「Ⅲ」が刊行される予定があるということの意味します。豊島区を走る鉄道はJRだけではありません。都電荒川線の前身である王子電気軌道や、東武東上線の前身である東武鉄道、西武池袋線の前身である武蔵野鉄道などについて、あるいは、今回の報告書では技術的な課題もあつて収録できなかった図面類についても、取り上げたいと思います。

今後は、学童疎開資料集などのパラスを考えながら、刊行計画を進めていきたいと思ひます。（いとう）



セピア色の記憶

第17回 東京初の立体交差橋「千登世橋」

左に示した二枚の写真は、ほぼ同じ地点から撮影した昭和八（一九三三）年頃と現在（二〇〇六年九月五日）の千登世橋（目白一丁目・同二丁目・雑司が谷三丁目・高田二丁目との境界部分に架設）明治通り部分の様子です。地図に示した*印は撮影地点を、↓印は撮影方向を示しています。明治通りと目白通りが交差するこの地点は、今では日中には車両が途切れることがないほどの混雑ぶりです



ので、上写真の閑散さにはビックリです。また、昔懐かしい自動車やバスの形、周りの景観に現在とのギャップを感じます。東京で最初の立体交差橋とされる千登世橋は、橋長二八メートル、有効幅員一八・二メートルで、昭和八年二月に竣工しました。橋名は、このあたりが明治初年より「高田千登世（町）」と呼ばれていたことに由来すると思われる。橋の東南角には昭和九年一二月に建立された

来島良亮（一八八五〜一九三三年）記念碑があり、碑文には、来島が東京府土木部長として明治通りの整備と千登世橋の架設に尽力した旨が刻まれています。明治通りと目白通りとの交差部分については、当初は明治通りは神田川から二メートルの高低差がある目白台まで一気に急坂を上り、目白通りと平面交差するはずでした。しかし、東京府は、この二本の道が東京山の手の住宅地としての



千登世橋目白通り部分（黒澤勝氏提供）

発展、および、神田川沿岸の工業地帯の発展にとって重要な路線であるとの認識から、将来の交通量の急増に対処するためと、坂道の勾配を緩やかにするために切り通しとして立体交差とする方法を採用したのです。そして、幅員八間の連結道路（ランプ）を設け、橋梁の前後二箇所に歩行者用階段を設置しました。

平成二（一九九〇）年には、東京都による著名橋整備事業としてリニューアル工事が行なわれましたが、今なお竣工当時の面影を残しています。（秋山）

*本欄は「かたりべ 39号」（一九九五年九月発行）所収「豊島をさぐる」の記述を参照しました。

郷土資料館からのお知らせ

上半期に実施した館蔵資料の大規模な引越作業のため今年後半に展示と講座が集中することになりました。ご利用の方には迷惑をおかけしますが、「どの講座を受講しようか迷ってしまう！」というところもあるかも(?) しません。

展 示

◆第2回企画展 1月31日(水)～3月11日(日)「豊島区のライフライン―電気・ガス・水道の地域史―」(仮題)

講 座

◆歴史講座(1) 「スガモブリズン」

①9月30日(土) スガモブリズンの囚われた人たち 講師・内海愛子氏(恵泉女学園大学教員)

②10月7日(土) 韓国出身BC級戦犯の思い 講師・内海愛子氏、ゲスト証言者・李鶴来(イハanne)氏

【40名募集】

◆歴史講座(2) 「鉄道史料を読む」

①10月29日(日) 「山手線前史」

講師・奥原哲志氏(交通博物館学芸員)

②11月5日(日) 「鉄道史料を読むI」

講師・伊藤暢直(当館学芸員)

③11月12日(日) 「鉄道史料を読むII」

講師・伊藤暢直(当館学芸員)

【40名募集】

◆地域史講座(1) 「江戸の武家屋敷をあるく」

①10月19日(木) 講義(事前学習)

(仮称)江戸の武家屋敷 講師・岩淵令治氏(国立歴史民俗博物館助教授)

②10月21日(土) 駒込・本駒込方面へのフィールドワーク 講師・岩淵令治氏

◆地域史講座(2) わかる豊島区・4「道・まち・商い」

【30名募集】

・まち・商い

①11月18日(土) 目白通りと商店街

②12月16日(土) 道がつくった街

③1月20日(土) 戦後復興と「まち」

④2月17日(土) 江戸時代の町と豊島区地域

区地域

*いずれも、当館学芸員・生涯学習指導員が講師です。

【40名募集】

資料の保管

資料を害虫等から守るために、一年に一回、煙蒸作業をしています。当館の収蔵庫は、①勤労福祉会館の七階、②雑司が谷旧宣教師館事務棟一階、③高南第一

*展示・講座の開催日と内容等については当館へ直接お問い合わせください。また、「広報としま」をご覧ください。

区民ひろば内建物二階、④西部区民事務所二・四階、そして⑤旧第十中学校の一・四階にありますので、それら全ての場所を実施します。効率よくガス(人には無害)が噴霧されるよう、養生をするため、当館は、十一月二三日～二九日の間休館しますのでご理解をお願いします。

♪ 作業室から ♪

展示室には、資料や写真を解説した文字パネルがあります。ワープロやパソコンで文字を打ち出し、印刷した紙を糊付きのパネルに張り、ナイフでカットします。パネルは五㎜と七㎜の厚さ。角は、限りなく直角に。オヤツ?というところはご愛嬌。どんな大きさもOKの表技です。



編集後記

気候がよくなり、外に出る機会が増える今日この頃です。博物館や美術館が開催する展示や講座へ参加される方もきっといらっしゃるでしょう。毎年そうですが、当館のこの時期は、来年度の事業予定をたてています。その際には、展示や講座のときにいただくアンケートや入館票のご意見を参考にしています。

ですが、難題は、来年度中に必ず行なわなければならない資料の引越し作業の時期と方法で、事業への影響をどうやって最小限にとどめるかということです。今度は、西部区民事務所(元平和小学校)にある普通教室約4部屋分相当の資料量を旧第十中学校へ移動するのです。しばらく落ち着かない資料館です。(福岡)

かたりべ
No.83

2006年9月15日

豊島区立郷土資料館
豊島区西池袋2-37-4

電話 03-3980-2351
http://www.museum.toshima.tokyo.jp